

新学習
指導要領スタート!

国語

小学校の先生への メッセージ

子どもたちから
“〇〇したい!”
と言わせましょう

子どもたちを「読み」
子どもたちが「見える」
先生になってほしい!

細川 2年生に「スイミー」の単元を指導したとき、“レオ・レオニの作品を紹介する”という言語活動をやったのですが、そのときに、子どもたちから「レオ・レオニが読みたい。」と言わせたい、私からは絶対に言わないようにしようと思い、教室にわざとらしくレオ・レオニの本を並べたり、レオ・レオニの作品のぬいぐるみを置いたり、黒板じゅうレオ・レオニ作品の絵はがきだらけにしたりして、レオ・レオニモードをつくっておいたのです。ちょうどその日は雨で、子どもたちは教室に並べていた本を休み時間に読み始めました。休み時間が終わって次の時間が算数だったので「算数やるよ。」といったら、子どもたちが「え〜っ、レオ・レオニを夢中になって読んでいるのに。」「先生は、いつも僕たちが自ら本を読むことが大事と言っているじゃない。」と、2年生でもこんなことを言うのです。

この学習では、お気に入りの一文とその理由を書かせることが目標だったのですが、子どもたちは自然とお気に入りの一文を見つけ、それをレオ・レオニびっくり箱にして紹介することができました。このように教師が〇〇しようと言うのではなく、子どもの「〇〇したい!」から授業を始めることは重要です。

しかし、子どもの好き勝手に授業をするべきだと言っているわけではありません。大切なことは、学ぶべきことを子どもの学びたい言語活動の中に入れ込み、その活動を子どもがしたいというように仕向けることです。そのことで、学習指導要領で身に付けさせたい資質・能力を子どもが主体的に学ぶことができるのです。

菊池 子どもたちは、常に“できるようになりたい”、“分かるようになりたい”と思っているものです。しかし、授業だけでは十分に達成できず、いろいろなところでつまずいてしまいます。そのつまずきを先生がしっかり捉えていくと、授業で「何を指導したらよいのか」、「どんな指導法を講じればよいのか」、「どのような学習過程を進めればよいのか」などが、自ずと「見えて」くると思います。そのためには、ノートや発言など、子どもたちの思いや考えを読み、授業を構築して行ってほしい。そこに授業のヒントがあると思います。

低学年や中学年では、全ての子どもが自分の学びを丁寧に振り返り、文章化できるわけではありません。言語活動をさせて表出させて、その表出させた言語活動の姿から子どもたちの学習状況やつまずきを読み取っていただきたいと思います。

また、話す言葉、聞いた言葉、書いた言葉、読んだ言葉に真摯な態度で向き合っていくことは、「自分自身をよりよく創り上げていくことにつながる」ということを、子どもたちに実感させてほしいと思います。そのためには、先生方には、子どもたちが話したくなる、聞きたくなる、書きたくなる、読みたくなるような授業を目指し続けてほしいと思います。そして、言葉を媒介にして、思いを伝え合うことに喜びや幸せを感じ、言葉が生き生きと躍動していく、そんな国語教室をつくっていくことを期待しています。

